

第五期中期目標(案)修正箇所

委員	委員意見	項目	修正前(第3回分科会時点)	修正後
桑田委員	地域産業の振興について、支所のみならず、法人として取りまとめる必要性を記載に盛り込むと良い。	一(一)エ 支所における地域性や専門性に応じた技術支援	各支所において、それぞれの特性と強みを活かし、所在地域の産業特性に応じた企業密着型の支援または特徴的な技術分野を発展させた高度・専門的な技術支援を行う。また、複数の技術分野にまたがる課題を抱えている中小企業に対しては、各支所の特性を有効に活用し、本部の研究部門と支所、あるいは複数の支所が連携した支援を行う。	都内各地域における産業特性と産業振興の方向性を見据えて、区市町村との連携を強化し、地域の実状を捉えた効果的な支援を展開する。 各支所においては、それぞれの特性と強みを活かし、所在地域の産業力の強化に寄与する企業密着型の支援または特徴的な技術分野を発展させた高度・専門的な技術支援を行う。また、こうした各支所の多様な特色を有効に活用し、本部の研究部門と支所、あるいは支所と支所とが連携することで、複数の技術分野にまたがる課題を抱えている中小企業に対して効果的な支援を提供する。
宮川委員	支所がどれだけ本部と連携を取りながら、その地域の企業及び産業の動きを知り、支援しようとしているのかという点を踏まえた記載にすると良い。			
大橋委員	支所は、小回りの利いた支援ができることをにじませた記載にすると良いのではないか。			
桑田委員	産技研が先端技術に対する研究等で得た技術を、中小企業に展開していくことに触れると良い。	三(一) 社会課題・都政課題の解決に向けた技術的知見の蓄積	研究を推進するにあたっては、内部資金による基盤研究に加え、大学・連携協定機関との共同研究や外部資金導入研究も組み入れることで、積極的に技術シーズを蓄積する。	これらの研究を推進するにあたっては、内部資金による基盤研究に加え、大学・連携協定機関との共同研究や外部資金導入研究も組み入れることで、積極的に技術シーズを蓄積する。 中小企業に対して、都産技研が研究により蓄積した先進的な技術について、社会や産業の動向を踏まえた活用の可能性を示し、普及セミナー等により情報発信と技術移転を進める。
桑田委員	社会実装の支援について、より具体的に記載すると良い。例えば、チャネルづくりを進めていくことや、投資を呼び込むような異分野交流などがあげられる。	二(二) 中小企業・スタートアップ等の連携による新技術・新製品開発の促進	単独企業では困難な技術課題の解決や新技術・新製品開発に取り組むために、他の企業や大学等との連携によるオープンイノベーションに意欲を示す中小企業に対して、マッチングの場を提供する。 共通の技術課題に関心を持っている、異なる分野の製造業の企業や情報通信サービス業などサービス産業分野の企業などからなる、業種を越えた企業グループの設立と運営を支援し、都産技研の技術的知見も提供することで、情報交流、新技術の習得から協業、共同開発に至る活発な活動を促進する。また、そうした企業グループ相互の交流も促進することにより、オープンイノベーションの輪を広げる取組を行う。	単独企業では困難な技術課題の解決や新技術・新製品開発に取り組むために、他の企業や大学等との連携によるオープンイノベーションに意欲を示す中小企業に対して、マッチングの場を提供する。 共通の技術課題に関心を持っている、異なる分野の製造業の企業や情報通信サービス業などサービス産業分野の企業などからなる、業種を越えた企業グループの設立と運営を支援し、都産技研の技術的知見も提供することで、情報交流、新技術の習得から協業、共同開発に至る活発な活動を促進する。また、そうした企業グループ相互の交流も促進することにより、オープンイノベーションの輪を広げる取組を行う。 中小企業のオープンイノベーションの活動がビジネスとして発展するよう、都産技研と他の支援機関や金融機関等との連携のネットワークを活用したマッチングの支援を行う。
宮川委員	13ページ「優れた技術力と進取の精神をもった中小企業との共同研究」とあるが、特定の企業を前提としているように読み取れるため、広く募集する旨を記載すると良い。	三(二) 革新的な技術やサービスの創出につながる共同研究開発	都産技研が蓄積した技術シーズを活用し、優れた技術力と進取の精神をもった中小企業との共同研究によって、社会課題解決に資する先駆的な製品・サービスの開発を目指す。	優れた技術力と進取の精神をもった中小企業を広く募集し、都産技研が蓄積した技術シーズを活用して共同研究を行うことによって、社会課題解決に資する先駆的な製品・サービスの開発を目指す。